

2024 年度日本小児腎不全学会評議員会議事録

日時：2024 年 12 月 5 日（木）12:40~13:40

場所：野村コンファレンスプラザ日本橋 6 階中ホール 2

出席者（敬称略）：青木裕次郎、秋岡祐子、芦田明、海上耕平、漆原真樹、大田敏之、岡部安博、奥見雅由、酒井謙、佐藤裕之、寺西淳一、豊田麻理子、中西浩一、野島道生、幡谷浩史、服部元史、濱崎祐子、藤枝幹也、藤丸季可、堀田記世彦、三浦健一郎、清水朋一（石田先生代理）（22 名）

欠席者（敬称略、委任状あり）：石田英樹、岩見大基、川崎幸彦、賀本敏行、杉谷篤、野口満、渡井至彦（7 名）

事務局：宍戸綾子（ピーシーオーワークス）

1. 逝去会員報告

名誉会員であられた川村猛先生が逝去されたことが報告され、哀悼の意が表された。

2. 前回議事録確認

令和 5 年（2023 年）評議員会議事録を確認した。会則を一部改訂し、対象を「小児腎不全」から「小児および思春期・若年成人の腎不全」としたこと、2024 年度から事務局業務が PCO ワークスに委託されていることが確認された。

3. 第 45 回（2024 年）会長の挨拶

濱崎祐子先生よりご挨拶いただいた。企業共催・広告集めが厳しかったこと、優秀演題の応募が多く、大会側で査読し、演題数を調整したことが報告された。

4. 新評議員の挨拶、紹介

酒井謙先生、海上耕平先生、豊田麻理子先生よりご挨拶いただいた。

5. 令和 5 年度会計報告、監査報告

2023（令和 5）年度の会計報告が事務局より行われ、会計報告が適正なことが監事の藤枝幹也先生、渡井至彦先生の書面によって報告され、承認された。

6. 令和 6 年度予算案

2024（令和 6）年度の予算案が事務局より報告され、承認された。

7. 会員動向

2024 年 11 月 1 日現在の会員数は、正会員 602 名、名誉会長 1 名、名誉会員 26 名であると事務局より報告された。ここ数年は若干減少傾向だが、多職種の会員を増やす努力をしていくこと、その一環として平成 30 年から医師以外の年会費を下げていることが確認された。

8. 新評議員の推薦

石倉健司先生（北里大学小児科学教授）、野津寛大先生（神戸大学小児科教授）、今村亮一先生（長崎大学泌尿器科教授）、石井大輔先生（北里大学泌尿器科診療准教授）、横尾

隆先生（東京慈恵会医科大学腎臓・高血圧内科教授）、升谷耕介先生（福岡大学腎臓内科教授）が新評議員として推薦され、承認された。

9. 次々期（第 47 回）会長の選出

第 47 回（2026 年度）会長に横尾隆先生（東京慈恵会医科大学腎臓・高血圧内科）が推薦され、承認された。事務局より、「小児」に限定された学会名であることが共催集めのハードルになっていることが報告され、学会名の変更も検討すべきかもしれないことが議論された。

10. 編集委員会報告

濱崎祐子先生、藤丸季可先生が新たに編集委員に就任することが承認された。

事務局より、看護研究報告が少ない現状があり本田順子編集委員に相談し、昨年から投稿規定に「実践報告・事例研究」のカテゴリーを追加したところ、44 巻（2024 年 8 月発行）では 1 編の論文が掲載されたことが報告された。

会誌作成費用に関して、2022 年以降、経費削減のため、作成費を 1 ページ 8600 円に抑えていることが報告された。一方、広告費も減少していることが報告された。

自主投稿が年間 2-3 編あり、投稿料を科すことが今後の検討事項になりうると議論された。

11. RRT 誌

Renal Replacement Therapy 誌が日本小児腎不全学会、日本透析医学会、日本臨床腎移植学会、日本腹膜透析学会等の公式な英文誌であり、随時投稿が受け付けられていることが報告された。

12. その他

1) 優秀演題賞の応募・選考に関する申し合わせ事項が確認された。

濱崎先生より、今回は応募数が多く、査読して演題数を調整したことが報告された。申し合わせ事項の加筆修正が必要と考えられ、濱崎先生にお願いすることとなった。

2) 小児科学会専門医更新単位認定について

現地開催となってきたことも受け、今後の学術集会で申請していく方針が確認された。

また、日本臨床腎移植学会、日本腎臓学会の単位もついていること、現在日本透析医学会も申請中であることが報告された。

3) 学会収支状況

学会収支状況が報告された。経年的に広告費収入が減少していることと、事務局業務を委託したことから、今後繰越金が減っていく見込みであることが報告された。その対応として、医師の年会費を増額することについて、来年の評議員会で具体案をあげて議論する方針となった。

徴収方法をオンラインにする提案がされたが、事務局ですでに検討しており、システムの構築費用が大きいいため本学会の規模に見合わないことが共有された。

4) 会員構成

2024 年 11 月 1 日時点の会員構成が医師 93.96%・看護師 4.45%・管理栄養士 0.48%・薬剤師 0.32%・その他 0.79%（移植コーディネーター1 名、教員 1 名、保育士 1 名、図書館員 1 名）であることが報告された。引き続き多職種の会員増加を図る必要性が報告された。

5) 日本移植学会医療標準化・移植関連検査委員会からの相談

小児ドナー、とくに 20kg 未満（年齢は 6 歳未満）の場合、小児レシピエントがなかなか決まらない（辞退する場合が多い）。このため、クロスマッチ（CDC と FCXM）の件数が膨大になり、少数の施設に大きな負担がかかっている。今後、6 歳未満のレシピエントを登録している施設と対応を協議する方針であることが報告された。

13. 次期会長の挨拶

第 46 回会長の石田英樹先生の代理として清水朋一先生より準備状況が報告された。2025 年 12 月 18 日(木)～12 月 19 日(金)に「君の笑顔でいっぱいになりたい！—拡がり繋がる小児腎不全治療—」をテーマとして箱根湯本富士屋ホテルで開催予定であることが報告された。

日本小児腎不全学会事務局

議事録作成

服部元史

印

議事録署名

濱崎祐子

印

石田英樹

印

石田英樹

